

民主 安保法で路線対立

りませぬ」

れるだけだ」

共産党が呼びかける連立政権には応じない考えを強調しつつ、こう続けた。

「選挙区がパツティングしないところは共産党との連携を進めていく」

これに細野が異を唱えた。「政策の差がありすぎる。一緒にやるわけにはいかな

い。『民主党は政権を担当するつもりがあるのか』と疑問

をめぐり、8者会議の数時間後、岡田の指示を受けた北

沢俊美元防衛相が国会内の会議室に党安保総合調査会の幹部を集め、共同提出に向け党内調整をスタートさせた。

細野はその夜、同じ保守系の前原誠司元外相、長島昭久元防衛副大臣と東京・銀座のバーでグラスを傾けた。「党

の政策を現実的な路線に持っていくたいが、なかなか出来ないんです」と吐露し、肩を

落とした。

3人は日米関係を重視する立場から、安保法の「廃止」ではなく、「修正」を求めている。党の政策責任者である細野は「選挙での連携にこだわらなくなり、安保政策で共産党と手を組む神経がわからない」と不満をぶちまけた。

派の代表格・赤松広隆前衆院副議長が率いる旧社会党系グループの後押しで勝利したことも背景にある。赤松は周囲に「岡田さんは私たちの意見をよく聞いてくれる」と言っ

た」と離党を表明した。危機感を強める長島は、執行部内で孤立する細野に「同志はいくらでもいる。解党を求めぬ固まりを作らないといけない」と声をかけている。

だが、共産党との連携は、受け入れられているとは言い難い。10月25日の宮城県選で民主党は2議席減らし、倍増の共産党に第2党の座を奪

われた。翌26日には、松本剛明元外相が「民主党の進む道と重なるところがなくなっ

た」とみています。路線対立が続ぎ、党勢回復の兆しは見えない。それでも党内の危機感は薄い。若手議員は途方に暮れる。

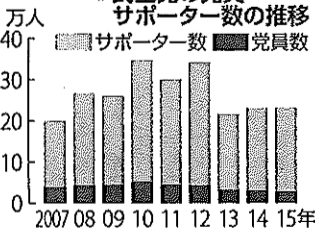
「民主党を脅かす野党がいなくなり、党内は奇妙な安堵感に包まれている。結局は自

民党の瓦解を待つしかないのか」

(敬称略)



民主党の党員・サポーター数の推移



党員・サポーター低迷 23万人

民主党の党員・サポーター数は、政権獲得直後の2010年に最多の計34万7733人(党員5万2115人、サポーター29万5618人)を記録したが、12年末に政権から転落すると、13年は計21万6549人に落ち込んだ。その後は計約23万人で推移している。

党員とサポーターには、代表選の投票権が与えられる。党員はさらに、各総支部での党員会議に参加して党の運営方針などについて意見を述べることができる。

「民主党を脅かす野党がいなくなり、党内は奇妙な安堵感に包まれている。結局は自民党の瓦解を待つしかないのか」

(敬称略)

5日午後1時、民主党本部8階の一室に岡田代表、枝野幹事長、細野政調会長ら幹部が顔をそろえた。国会対策委員長や参院執行部も加えた8人が、当面の党の方向性を議論する「8者会議」である。

岡田は、共産党との共闘路線について切り出した。

「共産党と連合政府を作るというイメージが持たれているが、そんなことは決してあ